

# 令和2年度 学校総合評価

## 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、学校の特色及び工業高校としての社会的ニーズも考慮して「学校経営計画」を策定し、その中の「学校アクションプラン」において、全日制では4、定時制では2、合計6の重点課題を設定した。各重点課題に対する取り組み状況や評価等はアクションプランに記載したとおりである。

学習指導の充実では、今年度よりICT機器を用いた授業の推進及び多機能教育支援ツール「Teams」の活用に取り組み、スタートの年としての実績を報告したが、授業の見直しなどができる良さもあるが、従来の対面授業の良さも加味しながら、うまく取り入れて効果的に使用することが大切であると指摘された。また、昨年までの資格取得の推進も継続的に取り組むよう望まれた。また、生徒指導の充実については、アンケートの実施など生徒の心に響いたものがあるとして、今回うまくいったポイントをおさえて来年度の目標設定につなげることを求められた。進路指導については、コロナ禍の就職活動の大変さをねぎらう声が聞かれ、インターンシップ等の取り組みが功を奏しているなど高く評価していただいた。特別活動に関しては、体育大会や文化祭での生徒の積極的な取り組みがうかがえ、満足度9割もさることながら、企画運営での7割以上の評価が高かった。また、このような行事への積極的な参加が会社でも頑張る力になることや、進学就職でもアピールポイントになるとのご意見をいただいた。

定時制の重点課題については、資格取得指導をはじめとした取り組みは、生徒が将来会社で大きな戦力になるとの意見をいただいた。また、「学校に来ることを楽しくする」が達成されており、卒業生の体験講話も効果的ではないかとのアドバイスがあった。

学校評議員会は2回開催し、重点課題について説明と報告を行った。評議員の方々からは、本校の取り組みについて評価をいただくとともに、数多くの示唆に富んだご助言や励ましの言葉を頂戴した。こうして伺ったご意見を、今後のより良い学校経営に生かしていきたい。

## 7 次年度へ向けての課題と方策

- (1) 今年度の学校評価の結果に基づき、本校の現状と課題について職員全体で謙虚に受け止め、計画の改善と取り組み体制の強化に努めていく。
- (2) 達成目標の妥当性を十分に検討し、また具体的な調査方法についても工夫して、重点課題への効果的な取り組みを目指す。
- (3) アクションプランを公開することにより、学校の取り組みに対する地域や保護者の理解を頂き、学校とのより緊密な連携を目指していく。
- (4) 本学校評価システムを通して、職員全体が学校の教育活動への共通理解を深め、生徒の人間形成や自己実現に向けた、真に有意義な教育活動に結びつけるように努める。

令和2年度 富山工業高校アクションプラン -1-

重点項目	学習指導の充実	
重点課題	ICT機器を用いた授業の推進及び多機能教育支援ツール「Teams」の活用	
現 状	<p>○ 基礎学力の不足や学習内容への関心の低さ等から、学習意欲に乏しく、授業への参加に消極的な生徒が増えてきている。また、家庭学習においては、レポート等の課題は行っているが、予習復習などを行っていない生徒が多く、家庭学習を習慣化させ、学力の向上を図る必要がある。</p> <p>○ ICT 機器を用いての授業は年々増えてきているが、さらに増やしていき、生徒が興味・関心を持ち、主体的に取り組むことができるようにするとともに、効率的で、よりわかりやすい授業を目指して、その利用を推進していかなければならない。</p>	
達成目標	タブレットを利用した授業件数	多機能教育支援ツール「Teams」の活用
	50回以上	全教科で実施
方 策	<p>○ 互見授業を通して、ICT機器を用いた効果的な授業の在り方について教員同士が学び合い、授業力の向上を図る。</p> <p>○ デジタルコンテンツを増やしていくとともに、学科・教科等で教員が共有できるようにする。</p> <p>○ 「Teams」を活用してのオンライン授業を研究・実践する。また、日々の授業の予習復習につながる課題や資料、オンデマンド教材などの提供を通して家庭学習の定着を図る。</p> <p>○ 「Teams」の効果的な活用法や可能性を探るとともに、教員研修で共有し、その利用を推進する。</p>	
達成度	タブレットを利用した授業件数	多機能教育支援ツール「Teams」の活用
	227回	普通教科 3教科で実施/8教科中 工業科 6学科で実施/6学科中
具体的な 取組状況	<p>○ 互見授業を通して、教員同士がICT活用の授業実践例を参観できるようにし、ICT活用の授業実践力の向上を目指した。</p> <p>○ 教員研修を通して、「Teams」の活用方法の学習会を行った。</p> <p>○ 「Teams」を活用して、オンライン授業や資料・課題の提供、協働作業などを実践した。</p> <p>○ 「Forms」を活用して、授業内容の理解度を把握するとともに、授業の振り返りを行い、生徒の学習内容の定着を図っている。</p>	
評 価	B	タブレットの使用件数は増加した。「Teams」の利用は全教科・学科では実現できなかったが、スタートの年としてある程度進めることができた。
学校評議員 の意見	<p>・対面授業の良さも認識しながら、取り入れることが必要だ。</p> <p>・昨年度からの 資格取得の追跡も行ってほしい。</p> <p>・ICT機器の活用では先生方も苦労されたのではないか。</p>	
今後に向けて の課題	<p>コロナ禍において、休校措置が取られるなか、生徒の学力確保のため、オンライン授業や課題・資料提供、協働作業など教育支援ツールの活用が必要不可欠となってきている。本校でも、「Teams」を用いて、オンラインによる学習指導をスタートした。休校下でも学習できる体制を作り上げていくために、また生徒の学習理解を深める上でも、教員は教育支援ツールの活用技術を身につけておく必要があり、今年度の取り組みは意義があったと考える。しかし、ただ回数を増やすだけでなく、普段の授業を第一に考え、授業との組み合わせを考えて、生徒にとって主体的・対話的で深い学びにつながる充実した内容となるよう進めていかなければならない。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和2年度 富山工業高校アクションプラン -2-

重点項目	生徒指導の充実	
重点課題	規範意識の醸成と主体性の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 以前に比べ、大人しい生徒が増加しており、粗暴な問題行動は減少傾向であるが、日常の挨拶などでも元気な挨拶をする生徒が減っている。</li> <li>○ 規範意識は持っているが、「これくらい」・「ちょっとくらい」という感覚から、校内でスマートフォン等の使用について指導を受ける生徒がいる。また、服装についても概ね適切だが、ちょっとしたゆるみが見られる。</li> <li>○ 日頃から交通安全と関連法規順守の徹底を呼び掛け、また事故情報などを伝え、意識高揚に努めているが、ほんの少しの油断で事故につながっている。</li> <li>○ 時間を守ることの大切さを確認し、遅刻の減少を呼び掛けている。不用意な遅刻数はわずかであるが減少傾向である。</li> </ul>	
達成目標	自転車事故件数:前年度比減を推進	
	スマートフォン・携帯電話使用に関する指導数:60件以内	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「元気な挨拶、明るい笑顔」をスローガンに校門や生徒玄関で挨拶を呼びかけるとともに、服装の適正化のための指導を実施。</li> <li>○ 自転車事故を分析し、原因・対策を周知することで、生徒自身が危険予知を行う習慣を身に付けさせる。</li> <li>○ 携帯通信機器に依存しない生活習慣の確立を目指し、校内での使用ルールを徹底させる。</li> <li>○ 保護者や地域の方と協議する場で、現状の問題点を共有し、多方面からの指導を実践する。</li> <li>○ 伝統を重んじ品格ある富山工業高校生としての自覚を高める。</li> </ul>	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自転車事故件数：27件 [R3.1.14現在 R元：26件]</li> <li>○ スマートフォン携帯電話に関する指導数：25件 (R3.1.14現在 R元：62件)</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発生した自転車事故の状況を分析した「事故報告書」をクラス掲示し、危険予知能力を養うことと、STなどで事故防止の呼びかけを行った。また、登校時に学校近辺で交通安全を呼びかけた。</li> <li>○ アンケートなどで各自の携帯通信機器の使用状況を認識させ、適切に使用できるよう呼びかけを行うとともに、休み時間での巡回指導など直接的な指導も実施した。</li> <li>○ 服装や社会でのマナーなど具体的なプリントを教室掲示し、富山工業高校生としての品格を自覚させるとともに、日常の生活習慣などについても適正化できるよう指導に努めた。</li> <li>○ 各学年・各学科と連携をとり、生徒に関わる情報を共有することで、多面的な生徒指導を行った。</li> </ul>	
評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に比べ自転車事故件数が増加し、目標を達成できなかった。</li> <li>・携帯通信機器使用に関して減少傾向が見られ、目標達成が見込まれる。</li> </ul>
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の心に響くものがあったのではないかと思います。今回うまくいったポイントをおさえて来年度の目標としてほしい。</li> <li>・自己を認識させることが大切である。</li> </ul>	
今後に向けての課題	<p>富山工業高校生としての自覚と品格を持たせ、一工業人として胸を張って社会に巣立って生徒を育成するため、日頃の生活習慣や規範意識などをより高めていけるかが課題である。そのための教員間の連携を深め、目標の共通理解を図ること、生徒への情報伝達の深化が大切だと考えている。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和2年度 富山工業高校アクションプラン -3-	
重点項目	進路指導の充実
重点課題	生徒の希望に対応した進路決定
現 状	○ 自らの進路選択を主体的に取り組むことが苦手であったり、自己肯定感の希薄な生徒が少なくない。生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、生徒自らが進路を選択できるように段階に合わせて指導すると共に、その進路先に適応し、自己実現を図っていく上で必要な諸能力（基礎学力、計画性、判断力、適応力など）の向上に努めることが重要である。
達成目標	3学年における就職希望の達成度(一次推薦応募先の合格率)
	95%
方 策	○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、生徒の就職先の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが企業についての情報を収集し、その上で就職先を決定させる。 ○ 進路面談室の利用しやすい環境を整え、資料閲覧や相談に対応する。 ○ 面接指導や応募書類作成など、全教職員の協力を得て、きめ細かい指導をする。
達 成 度	93. 12%
具体的な取組状況	○ 管理職、各学科、3学年、進路指導部で分担して約100社の企業に電話をかけ、採用計画や卒業生の就業状況などの把握に努めた。 ○ 求人票受付後は、求人一覧を作成して掲示し、生徒に配布した。また、求人票の写しを4部ずつファイルに整理し、3年生の教室近くで閲覧できるようにした。 ○ 就職希望者全員が応募前職場見学に参加し、応募先を決定した。 ○ 面接試験などの採用試験対策を、学年・学科・管理職との連携により実施した。 ○ 二次推薦で応募可能な企業を把握し、生徒の希望に応じて情報を提供した。 ○ 3年生を対象に卒業生による進路体験講話をオンラインで実施した。 ○ 製造業を中心とするインターンシップ（12月上旬に3日間）を実施し、県内企業128社に2学年生徒全員が参加した。 ○ 全生徒がキャリアパスポートの作成を通して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりして自己評価を行う取り組みを行った。
評 価	B 一次推薦応募先の合格率は昨年度より2.1%減少したが、民間企業の合格率は昨年度を上回った。
学校評議員の意見	・第一志望の会社に入社することも大事だが就職できたことが最も大切だ。 ・コロナ禍での就職は大変だったのではないかな。 ・インターンシップを積極的に取り入れたこともよかったのではないかな。
今後に向けての課題	○ 早い段階からの現実的な進路目標設定と個々の生徒に対応したサポートを行う。 ○ 社会から求められる人材の育成を目指した指導を行う。 ○ 高校卒業後の将来展望の見通しを立てさせる。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和2年度 富山工業高校アクションプラン -4-

重点項目	(4)特別活動の活性化(生徒会活動と学校行事)	
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした、学校行事に向けた積極的なとり組み	
現 状	○ 体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的な役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営・活性化を推進し学校行事をもりあげる。	
達成目標	・生徒会を中心として、生徒が積極的に企画し各学校行事と組み合わせながら、全校生徒が意欲的に参加し、気運を高めることを目指す。 * 事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。	
	運営・企画に積極的な参加意識度	75%以上
	学校行事に参加しての満足度	85%以上
方 策	○ 生徒会や運営委員会、代議員会を中心に体育大会、富工展に関する企画・運営を行う。 ○ 学校行事に向けて、全校生徒の一体感が感じられる取り組みを生徒会が中心となり提案し実行に移す。	
達 成 度	運営・企画(体育大会72%・富工展74%)／満足度(体育大会91%・球技大会89%)	
具体的な取組状況	体育大会……運営委員会、新型コロナウイルス感染予防の徹底と工夫 富工展……運営委員会、新型コロナウイルス感染予防の徹底と工夫	
評 価	B	生徒自身の計画立案、計画、参加意識は、目標に達しなかったが、満足度は大きく達成している。
学校評議員の意見	・満足度 9 割もすごいが、運営企画での満足度70%以上はとても素晴らしい。 ・行事に積極的にかかわる生徒は会社でも頑張ってくれる。 ・この体験が進学就職でアピールになる。	
今後に向けての課題	○体育大会は、毎年競技の見直し(種目・ルール・得点等)を行い、生徒自らの企画・運営意識を高めている。本校ならではの課題(科の人数や男女比)を解決する中で、今後もさらに質をあげる工夫を行いたい。 ○3年に1度開催される富工展は、科の特性の生かした工業高校らしさを出すことで、企画・運営に対する積極性を発揮する場となるように工夫したい。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)



【 定時制 】

令和2年度 富山工業高等学校アクションプラン -2-	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的な生活習慣の確立
現 状	<p>家庭生活や生育歴、学校生活や社会生活状況において様々な問題点を抱えている生徒が多く、生活設計が困難になったり、適応性の問題から規則やマナーを遵守する態度に欠けたりする場合もある。また、減少傾向にはあるが授業遅刻や早退もみられる。</p> <p>最近では、自分の将来を考え、毎日登校する習慣を大切に、年間を通して無欠席できちんとした高校生活をする姿も見られるが、皆勤・精勤生徒の割合は50%を割り込む傾向にある。基本的な生活習慣を確立し、自主・自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実に繋がると考える。</p>
達成目標	<p>○年間の皆勤・精勤生徒の割合 50% 以上(16人中8人) (元年度:33%、30年度:46%、29年度:28%)</p> <p>* 皆勤 = 1カ年の欠席が0日 * 精勤 = 1カ年の欠席が3日以内(欠課時数4で欠席1日)</p> <p>○全校生徒の平均出席率 97%以上(令和元年度:93.7%)</p>
方 策	<p>○日常での生徒とのコミュニケーションを大切にする。</p> <p>○生活状況の確認に努め、生活リズムを確立させる。</p> <p>○授業遅刻や早退がないよう声かけ指導、校内巡視等の充実を図る。</p> <p>○将来を見据えた進路指導の充実を図り、日常生活の見直しを行う。</p> <p>○健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。</p> <p>○保護者や事業所と緊密な連絡体制をとり、生徒が登校しやすい雰囲気作りを行う。</p> <p>○年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みにさせ、日々の生活支援を行う。</p>
達成度	<p>○今年度の皆勤・精勤生徒の割合:33%(実質登校者数15名中5名 12月24日現在)</p> <p>○出席率 1学期:97.9% 2学期:92.6%(平均94.5%)</p>
具体的な取組状況	<p>○生徒の健康や生活状態を確認(登校時、STなどでの声かけ)</p> <p>○始業前と授業間の巡回指導(教員2名での校内を見回り、出席状況を確認)</p> <p>○保護者との連携(生徒の状況を相互で把握、速やかに対応)</p> <p>○教育相談(養護教諭と非常勤カウンセラーとの面談による悩みなどの早期発見)</p> <p>○授業出欠状況の確認と生活指導(授業担当者による遅刻・欠席時数の集計)</p>
評 価	<p>C</p> <p>目標とする割合50%に対し33%と大きく下回った。 日常から生徒とコミュニケーションをとり、日常の様々な出来事など気軽に話ができる雰囲気作りに努め、生徒理解を深めるなど粘り強く指導を重ねた。自己不安、家庭不安など、心が不安定で消極的になり、欠席、欠課しがちな生徒には、教員間、スクールカウンセラー、家庭と連携を図りながらスピード感ある対応が大切となっている。今後も、進級や卒業を目指して、意欲的に学校生活を過ごす生徒が増えるよう、粘り強い指導を継続したい。</p>
学校評議員の意見	<p>・「学校に来ることが楽しくする」ことが達成されている。しかしそれを数値化することは難しい。 卒業生の体験講話などが有効ではないか。</p>
今後に向けての課題	<p>○生徒個々に応じた生活目標を設定し、日々の生活状況を確認しながら助言する。</p> <p>○充実感や達成感を与えるよう指導を工夫し、学習活動を行う。</p> <p>○卒業後の就職を念頭におき、目的意識をもって学校生活を送れるようにする。</p> <p>○進路決定後の生活習慣の安定化を図る。</p> <p>○養護教諭およびカウンセラーと連携をとり、生徒のストレスへの対処をスピーディに実施する。</p> <p>○家庭と連絡を密に取り、家庭環境に留意するとともに、必要に応じて中学校や外部機関と連携を行う。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)